

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- ・ 基本的な生活習慣を身につけ、さまざまな課題を克服するチャレンジ精神を持ち、主体的に判断・行動できる人材の育成
- ・ 「自分で未来に近づこう」をモットーに、物事を多角的に観察、検証するなど積極的な探求心を抱き、自ら思考、判断、行動、表現できる人材の育成
- ・ 多様な人びとと協働し、新たな価値を創造しながら、持続可能な社会の実現に向け、他者と積極的に意思疎通を図ろうとする社会性及びバランスのとれた国際感覚を持った人材の育成

2 中期的目標

- 1 考え抜く力を育む（白稜シップ1）
- ・ 「知識・技能」の習得を図り、生徒一人ひとりの課題に即した学習支援への組織的な取り組み。
 - ・ 自らの課題を見つけたり、考えたり、学びを深めたりできるように主体的・対話的で深い学びを推進。
 - ・ 学校設定科目「リーディングスキル基礎・応用」を通して、学習の基礎となる「読んで・聞いて・見てわかる力」を育む。
 - ・ 研究授業や授業見学、授業改善に向けた研修等を通じて教員の授業力向上を図る。
- 2 人と協働する力を育む（白稜シップ2）
- ・ 社会の一員としての必要なルール・マナーの習得と生きる力を育む取り組みの推進。
 - ・ ボランティア活動、体系的キャリア教育、地域連携等の取り組みにより、生徒の自己肯定感を高める。
 - ・ 「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」、LHR での学びや体験を通して「他者の立場にたって考える」などの社会的素養を育む。
- 3 踏み出す力を育む（白稜シップ3）
- ・ 「産業社会と人間」の授業を中心に生徒が自ら目標を選択、決定し、その達成に向けて行動する力を育む。
 - ・ 外部人材の活用を推進し、生徒が自らの将来について積極的に考える意識を高める。
 - ・ 職場見学やパイターン等を充実から社会への視野を拡充させ、生徒の経験則や SES（社会経済的地位）に関わらない進路実現を促進。
 - ・ 学校設定科目の学びから、多様性の受容を進め、未知の状況に対しても恐れず対応できる思考力、判断力を育む。
- 4 創造する力を育む（白稜シップ4）
- ・ 「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」等を中心に、すべての教科で生徒が自ら考え発表する機会を増やし、表現力を育む。
 - ・ 身につけた知識や情報を活用し、企画・制作・発表など学びに向かう力や、新しい考えや価値を生み出す力を育む。
 - ・ 清掃ボランティア活動や地域行事への参画を通じて、地域との交流を深める。
- 5 4つの力を育む基盤となる、安心・安全な学校づくり
- ・ 生徒の実態を関係者間で情報共有し、課題のある生徒を早期に発見・対応することで不登校や中途退学を減少させる。
 - ・ 外部人材と連携した生徒相談・支援教育体制の充実に取り組む。課題早期発見事業として居場所（「わたしカフェ」）の取り組みも継続。
 - ・ SC、SSW 等の専門人材、福祉等の関係機関と協力し、「社会とのかかわり」を重視した教育活動を推進する。
- 6 学校の運営体制
- ・ カリキュラムマネジメントに基づき、総合学科「大正白稜高校」の学びのスタイルを充実。
 - ・ 「大阪府教員等研修計画」を参考・活用し、教職員が成長できる体制を構築する。
 - ・ 本校の特色や状況を分析し、長時間勤務縮減に向けた取組みにつながる業務スクラップを実施。（校務運営に支障のない範囲）
 - ・ 充実した教育活動が展開できるよう校内快適空間の創造。
- * 令和8年度目標
- ・ 進路決定率を全国平均以上（R3 90% R4 92% R5 87.3%）
 - ・ 学校教育自己診断における「白稜シップ」の肯定率平均を 75%以上
（「考え抜く」R3 67.9% R4 62.6% R5 68.2% 、「協働」R3 82.3% R4 75.9% R5 76.5% 、「チャレンジ」R3 83.2% R4 76.7%、R5 80.6% 、「創り出す」R3 69.7% R4 65.7% R5 70.0%）
 - ・ 就職 1 次内定率 80%以上で、就職内定率 100%を維持（R3 1 次内定率 66.7%、R4 1 次内定率 84.1%、内定率 100% R5 1 次内定率 89.8%、内定率 100%）
 - ・ 大学入学共通テストの受験者 3 名（ R3 0 R4 1 R5 0）
 - ・ 一般入試による大学合格者数 3 名（ R3 1 R4 3 R5 1）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和　6年　12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【学習指導等】 ・生徒の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習方法を積極的に実施する一方で、「子どもは、授業がわかりやすいと言っているか」という保護者向けアンケートの肯定的回答率は 47%と厳しい結果となっており、教職員のイメージとは大きな乖離が見られる。生徒向けの「授業にさまざまな工夫が見られる」という肯定的回答率は 86%と高い数値を示していることから、授業内での理解と定期考査等でのテスト結果の不一致が一因として考えられる。 【生徒指導等】 ・生徒指導室、進路指導室の常駐教員の配置や居場所カフェによる教育相談体制の充実を図っており、生徒向け学校教育自己診断における「生徒相談」に対する肯定率が 59%から 76%に増加していることから日々の取組みの成果があらわれる結果となった。 ・生徒指導に関する肯定率は、保護者において 7 割を下回っており、時代に即した指導内容の見直しが必要であることが伺える。 【進路指導等】 ・進路実現については、きめ細かい指導を実践していることから一定の成果が得られており肯定率も生徒 84%、保護者 79%という高い数値を得る結果となっている。 【学校運営】 ・教育活動について、「教職員での日常的な話し合い」及び「教育相談体制が整備されており生徒は担任の先生以外の教職員とも相談することができている」の肯定率でいずれも 90%以上の数値を得ており、教職員間の良好なコミュニケーションを裏付けている。本校の強みであり、生徒にとって、より良い環境を提供できるよう努めていく。 【学校教育自己診断の結果から（生徒・保護者対象）】 ～肯定的回答率が前年度を上回った項目～ ■生徒（全 13 問中 12 問）→前年度を下回った項目なし Q　学校に行くのが楽しい（67%）（R 5_63%） Q　学校生活についての先生の指導には納得できる（73%）（R 5_61%） Q　進路や生き方についての考える機会（84%）（R 5_77%） Q　いじめについて真剣に応じてくれる（83%）（R 5_78%） Q　気軽に相談することができる先生がいる（76%）（R 5_60%） Q　命の大切さ等を学ぶ機会がある（86%）（R 5_79%） Q　行事は楽しく行えるよう工夫がある（77%）（R 5_75%） Q　授業ではさまざまな工夫がある（86%）（R 5_85%） Q　粘り強く考えるようになった（71%）（R 5_68%） Q　人と協力することがたくさんある（80%）（R 5_77%） Q　チャレンジすることを応援してくれる（84%）（R 5_80%） Q　自分の考えを伝えることが楽しい（72%）（R 5_70%） ■保護者　8 項目中 7 項目 ～肯定的回答率が 10 ポイント以上上昇した項目～ ■生徒（全 13 問中 2 問） Q　学校生活についての先生の指導には納得できる（73%）（R 5_61%） Q　担任の先生以外にも保健室や相談室などで、気軽に相談することができる先生がいる（76%）（R 5_60%） ■保護者　6 項目 ※昨年度（R 5）に比べ、概ね生徒の満足度は高い ～肯定的回答率が 70%に到達していない項目～ ■生徒（全 13 問中 1 問） Q　学校に行くのが楽しい（67%） ■保護者（全 8 問中 1 問） Q　家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている。（64%） ※保護者の満足度が徐々に改善傾向 上記結果から見い出せる学校課題 ・楽しい学校づくり ・分かる授業づくり ・生徒指導のあり方 ・魅力ある教育（行事等を含む）内容と情報発信の工夫	【第 1 回　令和 6 年 7 月 31 日】 1　令和 6 年度「学校経営計画」について 2　スクール・ミッションについて 3　令和 7 年度使用教科用図書（教科書）の選定について 4　学校の現状について （1）　学校の基本情報について ・教職員の構成や在籍生徒数の推移等 （2）　生徒の進路実績について ・具体の進学、就職先 （3）　学校のビジョンについて ・特色、特徴　・魅力発信　・ブログ　・外部連携 （4）　1 昨年度からの改善事項 ・遅刻指導の内容を見直し （5）　今年度の改善・取組み事項 ・内規等の精査、見直し　・「おにぎりプロジェクト」等について 5　その他（意見交換） 「生徒の実態にあった形で指導方法を見直すのは良い取組みである」 「積極的に地域とつながる努力を」 「地域に『先生の顔が見える』取組みを」など 【第 2 回　令和 6 年 11 月 21 日】 1　令和 6 年度「学校経営計画」の進捗について 2　学校の現状について （1）再編整備対象校について ・府立学校条例では ・これまでの動き ・入学生徒数の推移 ・募集停止の理由等 ・今後の動き ・教育内容等の継承について ・事務引継校について （2）今後の学校課題について ・在校生に対する教育内容の保証 ・特に学校行事の縮小化を懸念 3　その他（意見交換） 「学校行事等の規模が小さくなるが、PTA として最大限協力したい」 「PTA 組織も編成しづらくなることが考えられる、卒業後も尽力したい」 「中学校の保護者も地元へ高校がなくなること心配している様子である」 【第 3 回　令和 7 年 2 月 28 日】 1　学校の現状について ・卒業式実施の報告 →　卒業生の様子や来賓等の紹介など ・1、2 年生の現況報告 →　進級に向けた生徒の取組みの様子など 2　令和 6 年度学校経営計画及び学校評価の報告 3　令和 7 年度学校経営計画（案）審議 4　令和 6 年度学校教育自己診断の結果について 5　スクールポリシーについて 6　その他（次年度に向けた委員からのご意見・提案） 「閉校を迎えるからこそ、さまざまな行事を盛大に実施しましょう」 「生徒が大正白稜に来てよかったと本当に思える取組みを」 「学校の会議に積極的に協議会委員が入りたい」 「生徒の声をしっかりと拾って、さまざまな教育活動を展開してほしい」 「地域のいろいろな人材とつながってほしいし、その手伝いをする」 ※　会議終了後、結束を強固なものにするため、連絡ツールの作成を実施 ※

府立大正白稜高等学校

4 創造する 力んを とを 育む	（１）学習活動における発表機会の充実 （２）地域との交流	（１） ア. 「主体的・対話的で深い学び」を推進し、授業における生徒の発表機会等を充実させる。 イ. 「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」などで、発表会等を行い、新しい考えや価値を生み出す力を育む。 ウ. 土曜日に実施予定の「発表大会（文化祭）」を継続して行う。 （２） ア. 地域イベントやインターンシップ、進路行事、授業など様々な機会を通して、地域の幼稚園、小、中学校、介護施設、区役所、企業等と交流を深める機会を設ける。	（１） アイ. 生徒向け学校教育自己診断の「授業では、グループ活動や実験・実習、発表など様々な取り組みの工夫がある」の肯定率 85％以上 [85. 3%] ウ. 発表大会の肯定率 75% 以上[75. 0%] （２） ア. 年間５回以上の交流機会を設ける。[５回] ４ 生徒向け学校教育自己診断で「授業や行事を通して、何かを創ったり、自分の考えを人に伝えることが、以前より楽しく感じるようになった」(白稜シップ４)の肯定率 70%以上 [70. 0%]	（１） アイ. 生徒向け肯定率 86％（○） ウ. 教員の肯定率 82％（◎） （２） ア. ６回（○） →ものづくりフェスタ、商店街夏祭り、区民祭り、地域と連携した 880 万人訓練、社会福祉協議会でのイベント協力、おにぎりプロジェクト (白稜シップ４) 肯定率 72％（○）
5 安心・安全な 学校づくり	生徒理解の促進と相談体制の確立	ア. 新規感染症等も含め防犯・）防災対応能力の向上に努めながら未来予測可能な対応を講じ、生徒の安心・安全の確保に努める。 イ. 生徒個々の課題に対応する学校の体制（相談委員会・人権教育委員会・支援チームなど）を充実させる。また、「課題を抱える生徒フォローアップ事業」(居場所型)を効果的に活用し、外部人材を活用して生徒の支援につなげる。 ウ. 生徒の実態把握のため、中学校訪問や家庭訪問に積極的に取り組み、保護者、中学校、地域との連携をより強化する。 エ. 要配慮生徒に対する校内体制の充実に取り組み、諸課題を解決する。	ア. 生徒向け学校教育自己診断で「学校に行くのが楽しい」の肯定率 70%以上 [63. 1%] イ. 相談体制のさらなる充実に努める。 生徒向け学校教育自己診断で「生徒相談」に対する肯定率 65%以上 [59. 9%] ウ. 中学校訪問、家庭訪問を効果的に実施できたか。 ・中学校 10 校 ・家庭訪問 20 件 エ. 支援委員会の効果的活用 ・年間３回以上	ア. 生徒向け肯定率 67％（△） イ. 生徒向け肯定率 76％（◎） ウ. 中学校 ３校 家庭訪問 25 件（△） エ. 年間５回以上（◎）
6 学校の運営体制	（１）学校改革の推進	ア. 「チーム学校」にとどまらず、地域を含む外部との連携を強化し、進学・就職に係るインターンシップ等も含む新教育課程の実施に努める。 イ. 計画的な教職員研修の実施 人権教育委員会を中心にした１年間を見通しての研修の企画を早めに立案し、実施に努める。 ウ. 学年が連携した学校運営 首席がチーフとなり各学年主任との会議を密に行い、情報共有に努める。 エ. 「働き方改革」に取り組む。学校閉庁日や定時退庁日の設定、部活動大阪モデルのガイドラインに沿った取組みを徹底する。 オ. 教育環境を改善するための学校施設、設備の充実 カ. 学校説明会、中学校訪問等による情報発信、広報活動を充実させる。特に学校説明会については個別対応も臨機応変に行う。 キ. 特にホームページの更新を定期的に行い、行事予定や進路実績（３期生）など、常に最新の情報の発信に努める。 ク. 学校行事等に来校する保護者を増やすことで、行事に取り組む生徒達の意欲を高める。またそれにより PTA 活動の一層の活性化を図る。	ア. インターンシップ関係の取組みを年１回以上行う。[１回] イ. 人権や生徒の安全に係る研修を年間３回以上実施できたか [４回] ウ. 教職員による学校教育自己診断で「学年間連携」の肯定率 90％以上 [92. 5%] エ. 時間外勤務月一人当たり平均を 30 時間以内とする [18. 5 時間] オ. １年間に３件以上の改善[４件] カ. 学校説明会 3 回以上 [４回] 中学校訪問 1 回 [１回] キ. ホームページ内に SNS を活用した新たなコンテンツを構築する。 ・１項目以上 ク. 体育祭、文化祭、公開授業に来校する保護者数 300 名以上 [331 名]	ア. ２回実施（○） →１学年 １回 ２学年 １回 イ. 年間４回（○） →人権、熱中症、AED、教育相談関係ほか ウ. 教職員向け肯定率 97％（○） エ. 22. 5 時間（△） オ. ４件（○） →食堂ガス管敷設改修、正門塗装、敷地内完全除草、敷地内樹木剪定 カ. 説明会 ３回（○） 中学校訪問 １回（○） キ. ０項目（△） →安定的な運用が大きな課題となっている ク. 来校保護者数 336 名（○） →体育祭 114、文化祭 144、公開授業 78